



ブックスタートボランティア
はまき・みちえ
濱木 美知恵さん (阿品)

ブックスタートボランティアとして、4カ月児健診時の読み聞かせを行い、また、育児・介護などの援助を行うファミリー・サポート・センターで活動を続け、地域の子育てを支えている。

読み聞かせは、感情を扱うボランティア。
わたしの方が、幸せになれる瞬間です。

絵本は文字だけを読むものではありません。その本全体が醸し出す雰囲気や、余白、行間、そのほかページをめくる楽しさなど、作者の思いが随所に込められています。その思いを声のトーンや大きさを変えて、自分の中にある感情を出しながら読むようにしています。そこにお母さんも加わって、みんなで楽しい感情をシェアできるのがいいところなんです。

読み聞かせで赤ちゃんの無垢の笑顔に出会ったときは、「参加してよかった」と心から思える瞬間ですね。

子どもを育てる親は、いつの時代も大変です。そんな大変さを地域で

少しでもサポートできたらと思っています。

わたし自身、子育てをしていたとき、いろいろな人に支えてもらいました。今度はその恩返しをさせていただく番です。絵本を読むだけでなく、子育ての悩みや心配事が相談できる場として、頑張っているお父さん、お母さんの支えになりたいと思っています。

ブックスタートの読み聞かせを通じて、子育てのお手伝いに携われることに誇りを持っていますし、その笑顔に出会い、元気をもらっています。実はわたしの方が充実した時間を過ごしているのかもしれない。



赤ちゃんに優しいまなざしが注がれるまちづくりが始まっています

ブックスタート
ボランティアを
募集しています

本の楽しさに出会うためには、本と子ども間に架け橋になる人が必要です。

市では、あいプラザ、大野福祉保健センターで毎月、友和市民センターで偶数月に行われているブックスタートの事業をお手伝いしていただける人を募集しています。

赤ちゃんに絵本を読んであげたい、人や地域のあたたかさを自然な形で伝えたいなど、この事業に興味のある人の協力をお願いします。ボランティア希望の人は、図書館まで連絡してください。

問合せ

- はつかいち市民図書館 ☎@0333
- はつかいち市民大野図書館 ☎@1120
- はつかいち市民さいき図書館 ☎@1011

語りかける「愛情」で、赤ちゃんの幸せを広げるお手伝いをしてみませんか！



2月13日、友和市民センターで行われた4カ月児健診での絵本読み聞かせでのひとコマ。絵本は初めてという西本蓮士（にしもと・れんと）くん。お母さんのユカさんは、「興味を持ってくれたので、家でも読んであげたいと思います」と話してくれた。

—Interview—

絵本は、親子が関わりを持つ具体的な方法のひとつ。
ブックスタートの感想を聞きました。



かんだ・さきの はると
神田 咲乃さん・陽斗くん
(須賀・1歳6カ月)

絵本が好きになる
きっかけになりました

いただいた時は、家に帰ってすぐ読んであげました。もう一年以上使っていますが、今でもすごく反応しますし、そのほかの絵本、特に動物のものにすごく興味を持っています。

実際に読んでいただいていたから絵本を渡されたことが、家でも読むきっかけになりました。

もし、この読み聞かせがなく、絵本だけ渡されてたとしたらここまで興味を持たなかったと思います。今でも夜、寝る前などに読んでいます。



あきみつ・みか かのん
秋光 美香さん・花音ちゃん
(鳴川・5カ月)

今ではお兄ちゃんが
この子に読んであげています

初めての絵本を選ぶときにどれを選んでよいのか迷ってしまうので助かりました。お兄ちゃんのために『じゃあじゃあ びりびり』をいただきましたが、それがとてもお気に入りです、ずうっと読んでいます。

今は4歳になり、この子に読んであげるために練習しています。二人で使ったのでかなり傷んでしまいましたが、大事な一冊となりました。今日いただいたこの本も大切に使いたいです。



なかもと・ゆか りな
中本 友香さん・莉菜ちゃん
(永原・5カ月)

実際に読んで見せてもらったので
参考になりました

今日初めて絵本に触れました。手が動いたり、声の強弱に反応したりと興味があったようです。実際に読んで見せてもらったので参考になりました。家でも同じように読んであげたいと思います。

お姉ちゃんの時にもいただきましたが、穴があいているので指を入れたり、その指をつまんだりして親子で遊べたりもします。色をはっきりしているので、色を教えるのにもいいですね。

■ 赤ちゃんに絵本を「じゃあじゃあ」読むの？

絵本は、赤ちゃんとの触れ合いの手段です。赤ちゃんに絵本を読むときには、文字を読むのは1割で、赤ちゃんの表情を見るのが9割です。赤ちゃんに見つめられながら絵本を読む時間は、ボランティアにとっても幸せなひとときとなっています。

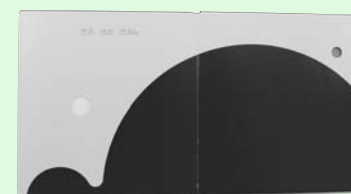
■ なぜ、プレゼントするの？

赤ちゃんのいる家庭の中には、絵本を持っていない家庭もあります。絵本そのものをプレゼントすることで、どの家庭でも、すぐに絵本を開いて、赤ちゃんと一緒に時間を持つことができる具体的ななきづけをつくりたいからです。

■ 選び抜いた絵本です

ブックスタートでお配りする絵本は、4カ月の赤ちゃんから楽しめるよう選んでいます。実際にその絵本は「4歳になった今でも楽しんでいきます」という保護者や、「自分で絵本を選ぶときに、その絵本を参考にしています」という声もありました。

この絵本を4カ月児健診でお渡ししています



『ごぶごぶ ごぼごぼ』

駒形 克己/作・絵 福音館書店

赤ちゃんは、リズムのある言葉の繰り返しを楽しんだり、言葉の意味よりもその響きやリズムに興味を持ちます。「ぶーん」「ぶくぶくぶく」「ぶぶぶ」などの音（言葉）の響きやリズムの楽しさを、色鮮やかなオレンジ、赤、青などの丸の動きで子どもたちに届けます。

